平成 31 年 1 月 25 日

平成 29 年度授業アンケートの評価について

1 学期に関しては調査対象とした 50 科目中 37 科目 (74.0%) から、2 学期に関しては 42 科目中 34 科目 (81.0%) から回答を得ることが出来た。

平成 29 年度の結果も、平成 26~28 年度と概ね同様であり、本学院の授業内容やレベルは適切な水準を維持していると判断した。シラバスに関連する設問 1~3 すべてにおいて、「強くそう思う」、「そう思う」との回答は 9 割前後に達しており、各教員がシラバスに基づいた講義を着実に実施していることがわかる。また、設問 5~10 における教員の説明、話し方、学生との双方向コミュニケーションなどに関する設問においても、8~9 割の学生が好意的な回答（「強くそう思う」、「そう思う」）をしており、昨年度よりもさらに改善されている。

「授業への出席率（設問 11）」に関しては、9 割前後の学生が授業に 80%以上出席したと回答している。また、「授業が満足できるものであったか（設問 15）」との問いに対して「強くそう思う」、「そう思う」と回答した学生の割合も 8 割を超えており、2 学期においては 9 割に達していた。昨年度に懸念された学生の主体的な学習意欲の低下に関しては、設問 12 「質問、発言、調査、自習などによる、授業への積極的な参加（【好意的な回答の割合】1 学期：55.6→66.2%、2 学期：63.1→69.2%）」や設問 14 「授業による知的刺激、さらなる勉学意欲（1 学期：70.5→73.5%、2 学期：76.8→89.4%）」の項目で回復が見られた。一方、授業 1 回の予習や復習に費やす時間（設問 13）については、最も少ない「1 時間未満」と回答する学生が前年度と同様に多いことから（1 学期：46.3→49.7%、2 学期：39.9→34.2%）、次年度以降もひきつづき留意して授業運営を進めていく必要があると考える。

以上から、授業内容の向上は堅実に進んでおり、今後も本学院の目的に沿った研究者ならびに高度専門職業人の養成を推進していきたい所存である。

北海道大学大学院環境科学院

学院長・教務委員会委員長・教授 大原 雅

執行部室・特任助教

川西 亮太